

星の里地域連携推進会議令和 7 年度開催会議録

会議日時	令和 7 年 9 月 2 日（火） 10：00～12：00
出席者	地域連携推進委員：福祉関係者 1 名、西条市地域福祉課 2 名、保護者 1 名、地域住民 1 名、利用者代表 1 名 星の里：田下（施設長）、及川（サービス管理責任者）、星野（第二サビ管兼生活支援）
【開会】 ●星の里施設長開会挨拶 会議の目的と役割についての説明 ・利用者と地域の関係作り ・地域の人への施設等や利用者に関する理解の促進 ・施設等やサービスの透明性・質の担保 ・利用者の権利擁護 ●会議参加者自己紹介 【星の里の取り組み等についての説明】 ●星の里の取り組みについて（星の里より説明） 利用者様のニーズや特性に応じて農工班、加工班、工芸班、洗濯班の 5 班に分けて活動している。出来る限り少人数グループ（3～5 人）で行えるようにしている。【職員配置 1.5 対 1】 地域交流や地域イベントへの参加については、飯岡小学校やライオンズクラブとの交流、ふれあい運動会や東福運動会等への参加となっている。 ※別紙資料にて取り組みを具体的に説明。 ●星の里の支援の取り組みについて（星の里より説明） 本人のニーズを大切に個別支援計画に沿った支援を行っている。年に最低 2 回の個別支援計画の見直しはしているが、必要なケースが出た場合は必要に応じて見直しをしている。 必要な方には標準的支援を取り入れている。 必要に応じてケース会議を行い、本人の特性と環境のミスマッチが強度行動障害を起こす原因となっていることを共通理解するために冰山モデルの活用もしている。 支援者一人での支援ではなくチームでの支援、チームアプローチで行うように取り組んでいる。 ※別紙資料にて支援の取り組みを説明。 ●利用者様の日常生活について（星の里より説明） 出来る限り本人に合った環境の提供を行うため、食事や入浴等、生活場面での環境への配慮を行っている。 ※別紙資料にて日常生活の細かい点を説明。 ●BCP 策定状況について（星の里より説明） 自然災害・感染症 BCP 研修は各年 4 回（研修 2 回、訓練・実技 2 回）行っている。 BCP 以外にも土砂災害や火災、防犯等の訓練も行っている。 令和 4 年度から今までクラスター（新型コロナウイルス）も 2 回起こっている。その際の状況も振り返り BCP の見直しをしている。 自然災害に関しては、西条市にも協力していただき避難している。しかし、環境の変化が苦手な方	

には避難することで環境が変わるので別のリスクもある

※その他は別紙にて訓練の必要性や効果等を説明。

●近隣からの苦情について（星の里より説明）

過去には近隣の方から騒音等、苦情はあった。支援方法を検討する事や近所の方の理解も深まったのか最近では苦情を受けていない。

●虐待、事故、ヒヤリハットの報告（星の里より説明）

虐待防止の取り組みの報告をしている。

令和6年度、ヒヤリハット報告書55件、事項報告書79件。

※別紙にて具体的な取り組みの説明。

●支援者の様子について（事業所より説明）

離職率について令和2年度は16%、令和6年度は2%だった。毎年、退職される方の状況等を整理し離職者を減らせるように取り組んでいる。

令和6年度、初めて入職1年未満の離職者が0人だった。入職後、徐々に仕事の量が増え、プレッシャーに感じるが多かったのではないかと考え、OJTの方法も個人に合わせ取り組んでいることが、令和6年度の離職に関して成果が出たのではないかと分析している。人材不足を解消するため、外国人技能実習生や特定技能実習生の受け入れも行っている。

自立課題の様子を写真を見てもらいながら説明を行う。

【質疑応答】

推進委員Aより・・・入所して家族との関わりは？

星の里より説明・・・土曜日の午後から月曜日の朝まで帰省される方も多い。毎週の方や隔週の方、月一回等、人それぞれではある。家族の方の高齢化に伴い、送迎が出来ない家庭は星の里としても出来る限り協力し送迎している。

入所したら最後まで入所ではなく、地域移行出来る方は地域移行している。

これまで、措置入所の方が後見人制度を利用後、GH（他法人）移行。

30年ほど星の里で生活されていた方もGHの体験を行い、本人の意思でGH（他法人）に移行。

行動障害者があり、地域での生活が難しくなり入所希望で短期のロングを使われていた方も1年半ほどかかったが、落ち着き他の事業所の体験等を積み重ねてGH（他法人）に移行できた。

地域移行を進めたことにより定員割れはしている。

推進委員Aより・・・一度入所してしまえば入所のままかと思っていたが地域移行しているという点も聞けて安心している。帰省の方も多いが、その点も家族との関係も継続できているので安心できる。

推進委員B・・・星の里で今後も息子がお世話にならないといけないと思っているが、年齢制限は？

推進委員C・・・介護認定や介護保険に切り変わらなければずっと使える。65歳になったからといってすぐに変更はしない。本人の状態を確認しながらで良い。（行政の立場から説明）

星の里より説明・・・本人、家族の意向や要望は聞く。しかし医療的ケアが必要な場合は出来ない面もあるので星の里での生活が難しくなることも考えられる。

推進委員C・・・ヒヤリハットに関して、どう改善したのか？会議をしているのか？

星の里より説明・・・星の里では事故防止虐待委員会があり、月 1 回行っている。

研修で外部講師が年に 1 回程度ヒヤリハットの必要性の内容の話をしていただいたり、法人障害事業部でも年 1～2 回、ヒヤリハットに関して共有し対応を考えている。

星の里では月に 1 回話し合いをする。状況に応じてヒヤリハットの様式や方法を変更している。

推進委員 D・・・BCP の訓練は具体的に何をするのか？

星の里より説明・・・グループに分かれてデスク上にてゾーニング方法を考えたり、汚物の処理の仕方やガウンの着脱方法を実際に練習したりしている。その他にも必要に応じて内容を考え実行している。

推進委員 A・・・利用者も訓練をしていくのか？

星の里より説明・・・火災や避難訓練に関しては利用者中心で行う。BCP に関しては基本職員が行っている。台風や高齢者避難等の指示があれば西条市にも協力していただき実際に避難をしてる。

推進委員 A・・・今治の山林火災で避難していた施設を見たが、2 泊 3 日過ぎたあたりから、利用者・職員も疲弊していた。避難しなくても良い場所に施設が出来ると利用される方や家族、施設の職員の皆さんも安心できるのでいいですね。

● 施設見学

施設見学後、以前施設内を拝見した時より雰囲気も変わり良い感じに感じましたと感想があった。

【閉会】

●星の里施設長閉会挨拶

会議の様子

